



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



ためし



○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



令和7年7月2日号 文責 上久木田 雄二



忘れ物の心理学

小学校生活を送る中で、「忘れ物」は多くの子どもたちが経験する「あるある」です。

時にはご家庭から学校へ、忘れ物を取りに戻ってくる子どももいます。

その際、ご家庭で叱られてしまい、学校に戻ってくる姿を見るたびに、私たち教職員も心を痛めております。

子どもの脳は、計画を立てたり、複数のことを同時に記憶したりする「ワーキングメモリ」という機能が、まだ発達の途上にあります。そのため、忘れ物は決して「だらしない」「やる気がない」といったことではなく、子どもたちが自立に向けて成長している証しであり、発達段階において自然に起こりうることなのです。

忘れ物に対して厳しく叱ってしまうと、子どもは「自分はダメな子だ」と自信を失い、意欲をなくしてしまうことがあります。また、叱られることへの恐怖から、忘れ物を隠してしまうようになることも少なくありません。

叱ることが、かえって忘れ物をしやすくする悪循環を生み出す可能性があるのです。

大切なのは、「なぜ忘れたの？」と責めるのではなく、「どうすれば忘れずに済んだかな?」「次からはどうする?」と、お子さん自身が解決策を考えるのを手助けすることです。

一緒に方法を考えることで、子どもの「脳の負荷」を減らし、自ら管理する力を育むことにつながります。

学校と家庭は、子どもの成長を支えるパートナーです。学校では、忘れ物を通して子どもたちが責任感を育めるよう、指導を行っております。

どうしても学校に置き忘れたものを取りに向かわせるときは、

- 16時45分前にしてください。
- 事前に電話連絡を入れてください。



忘れ物は、子どもが一步步自立へと向かう成長の足跡です。叱るのではなく、温かく見守り、共に考え、励ますことで、子どもたちは自信を持って未来へ羽ばたいていくことでしょう。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。



HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」